

滋賀の医療福祉に関する県民意識調査結果 ～概要版～

滋賀県では、「滋賀県基本構想」に「地域を支える医療福祉・在宅看取りプロジェクト」を掲げ、様々な取り組みを進めています。この度、今後の医療福祉行政推進の参考にさせていただくため、県民の皆さまに医療福祉や在宅看取り等に関する意識や意向についてアンケート調査への協力をお願いしました。

調査対象：満 20 歳以上の男女 3, 000 人 調査期間：平成 24 年 7 月 25 日～8 月 13 日
有効回収数：1, 775 人（有効回収率 59.2%） 調査方法：質問紙による郵送調査
滋賀県医療福祉推進課 電話 077-528-3521 FAX 077-528-4851

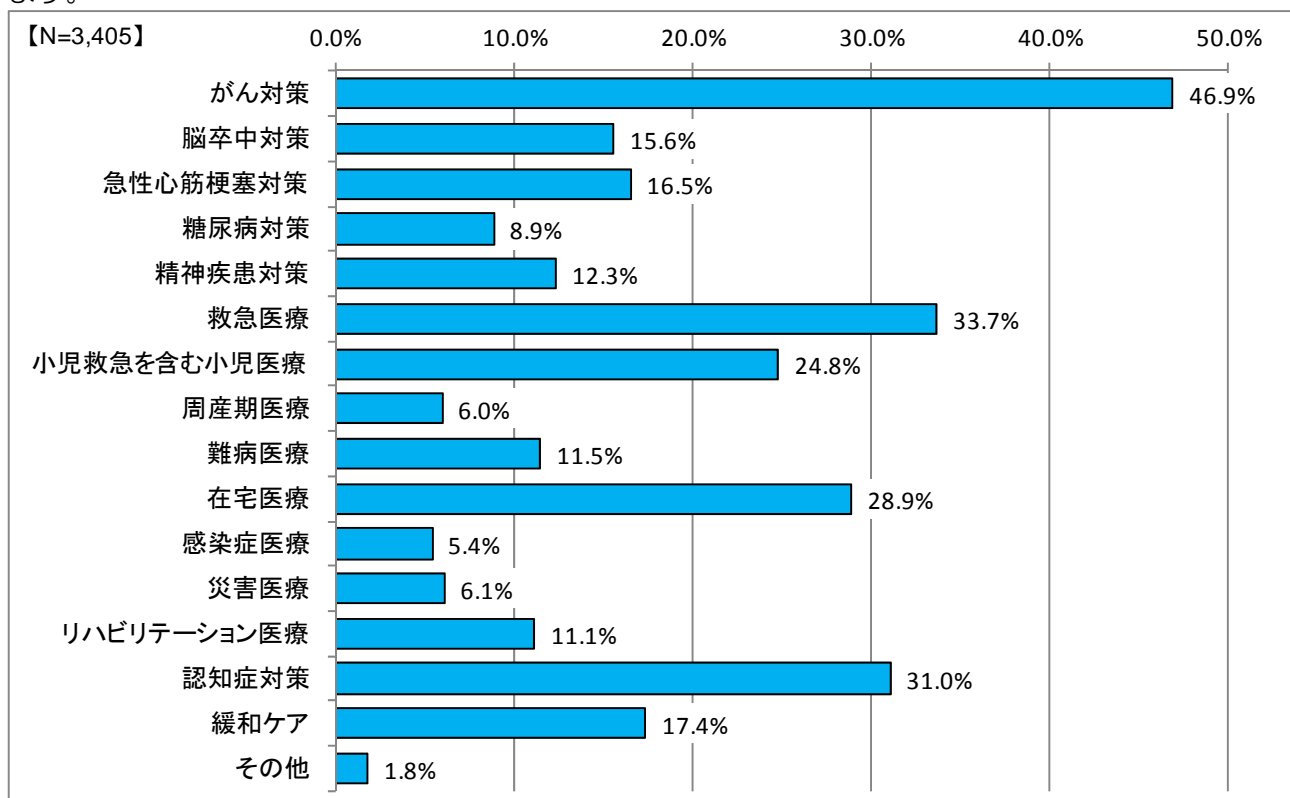
*各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重した規正標本数を基数として集計を行っています。
*Nは集計対象者数（付問は設問該当対象者）で、設問により異なります。
*百分比（%）は、小数点第2位を四捨五入し、第1位までを表示、その結果、合計は100.0%に一致しない場合があります。

1. 滋賀県の医療について

（1）今後充実してほしい医療分野

***がん対策、救急医療、認知症対策、在宅医療等の充実が望まれている**

今後充実を望んでいる医療分野では、「がん対策」が46.9%、「救急医療」が33.7%、「認知症対策」が31.0%、「在宅医療」が28.9%、「小児救急を含む小児医療」が24.8%などとなっています。



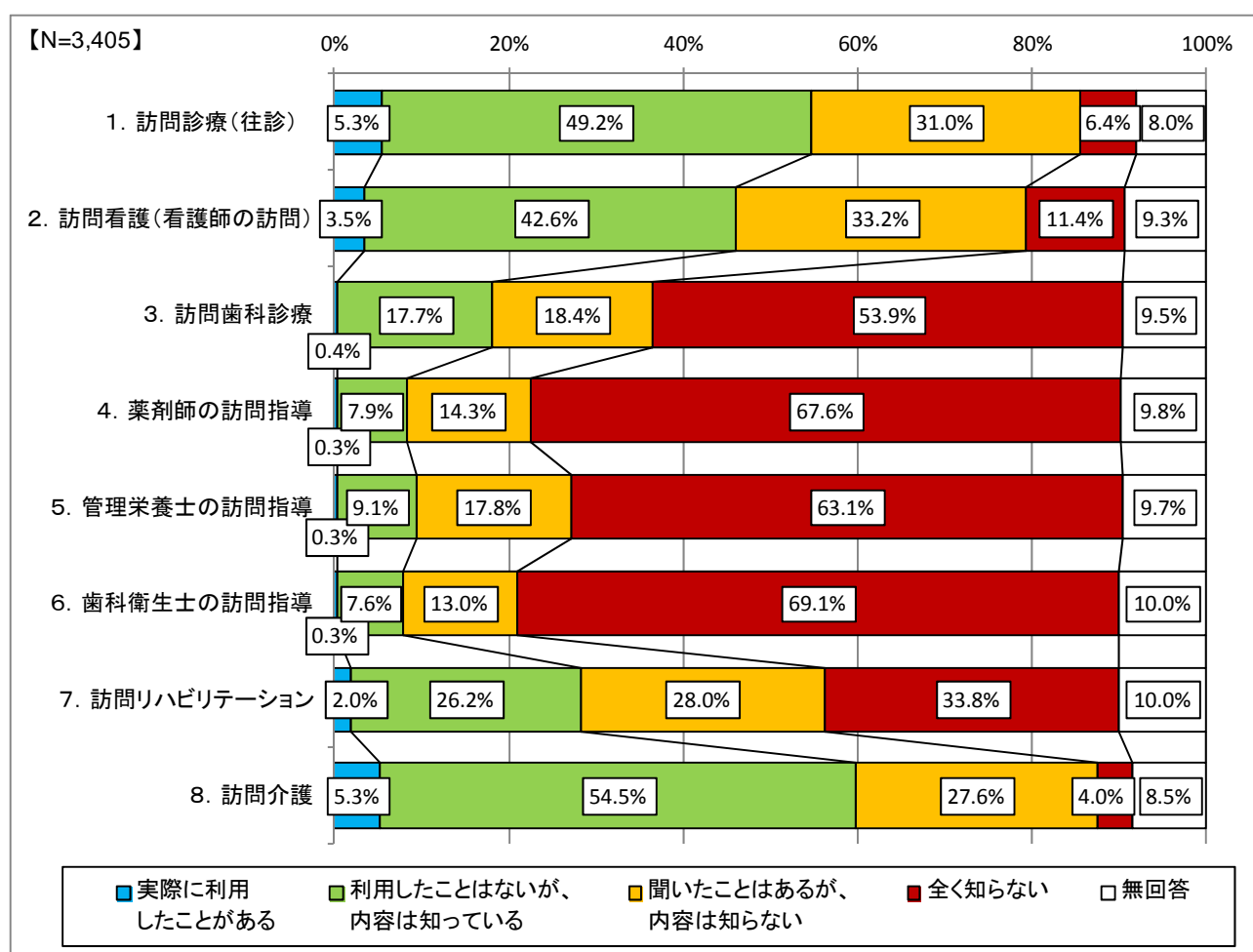
2. 在宅医療・終末期医療について

(1) 在宅医療の各サービスの認知度

＊訪問診療、訪問看護、訪問介護以外のサービスは、内容を知らない人が6割以上

在宅医療の各サービスについての認知度では、「実際に利用したことがある」のは多くても5%程度で、「利用したことはないが、内容は知っている」サービスでは、「訪問介護（ヘルパーの訪問）」の54.5%が最も多く、次いで「訪問診療（往診）」の49.2%、「訪問看護（看護師の訪問）」の42.6%となっています。

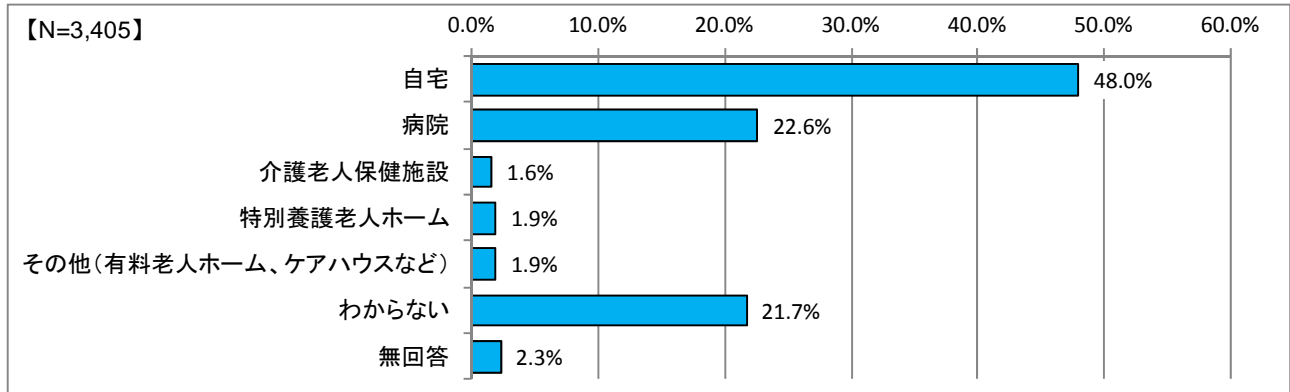
一方、「全く知らない」が多いサービスでは、「歯科衛生士の訪問指導」の69.1%や「薬剤師の訪問指導」の67.6%、「管理栄養士の訪問指導」の63.1%、「訪問歯科診療」の53.9%があり、これらのサービスについては認知度が低いと言えます。



(2) 人生の最期を迎えたい場所

*人生の最期を迎えたい場所は「自宅」が約半数

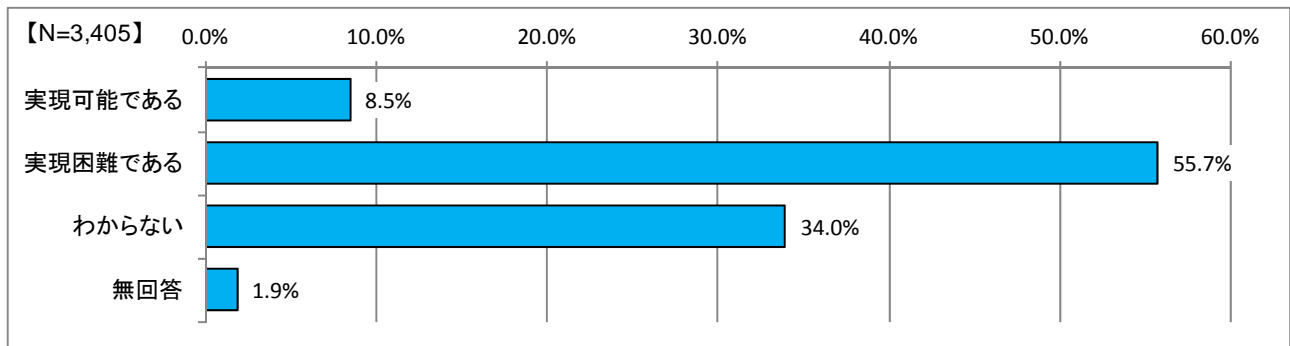
人生の最期を迎えたい場所では、「自宅」が48.0%で、次いで「病院」の22.6%となっています。また、「わからない」という回答も21.7%あります。



(3) 自宅で最期まで療養できるか

*希望は「自宅」、でも約56%の人は自宅で最期まで療養するのは実現困難と考えている

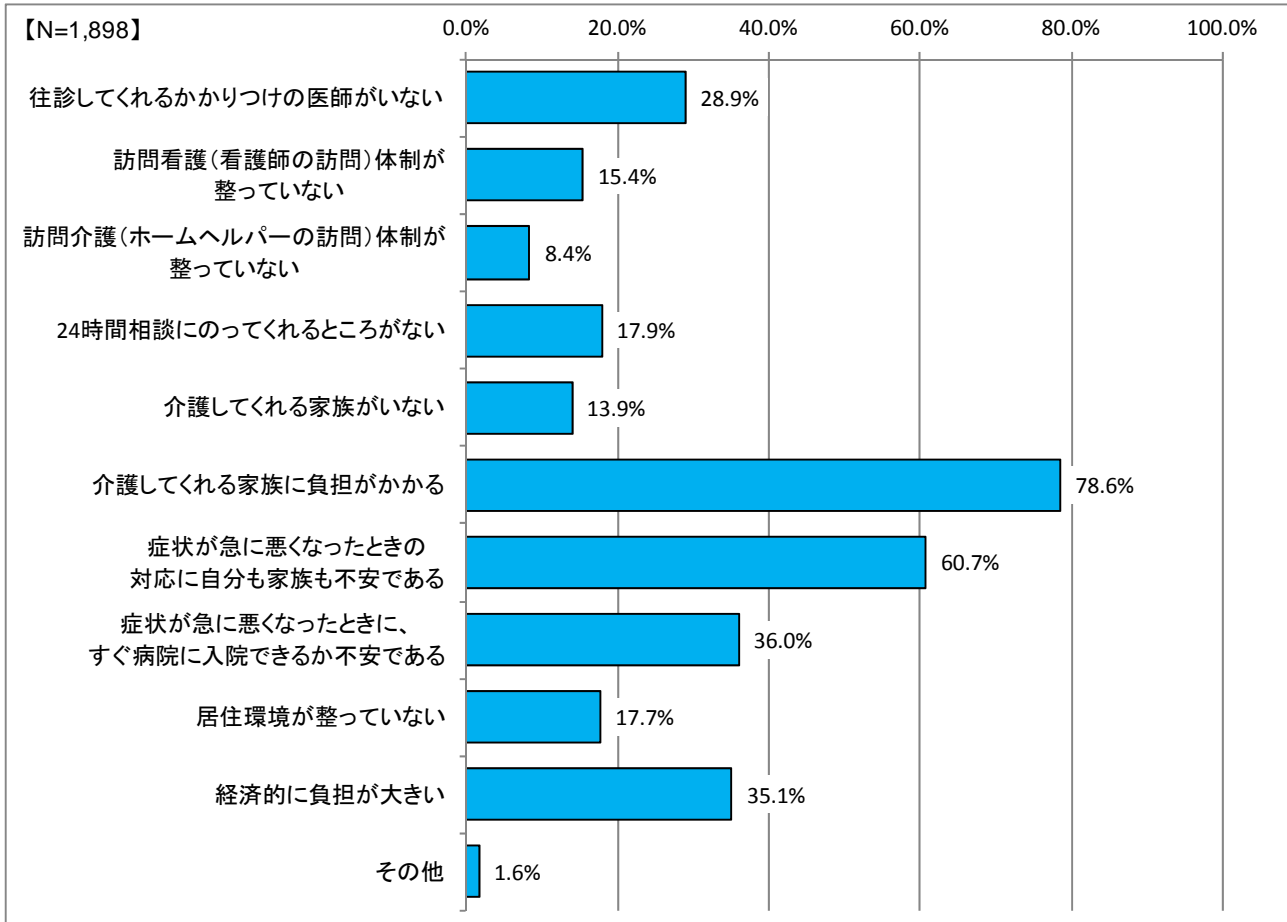
自宅で最期まで療養できるかでは、「実現困難である」が55.7%で、「実現可能である」の8.5%を大きく上回っています。



(4) 自宅療養が実現困難な理由

***自宅療養が実現困難な理由は、家族の負担、急変時の対応が不安という人が多い**

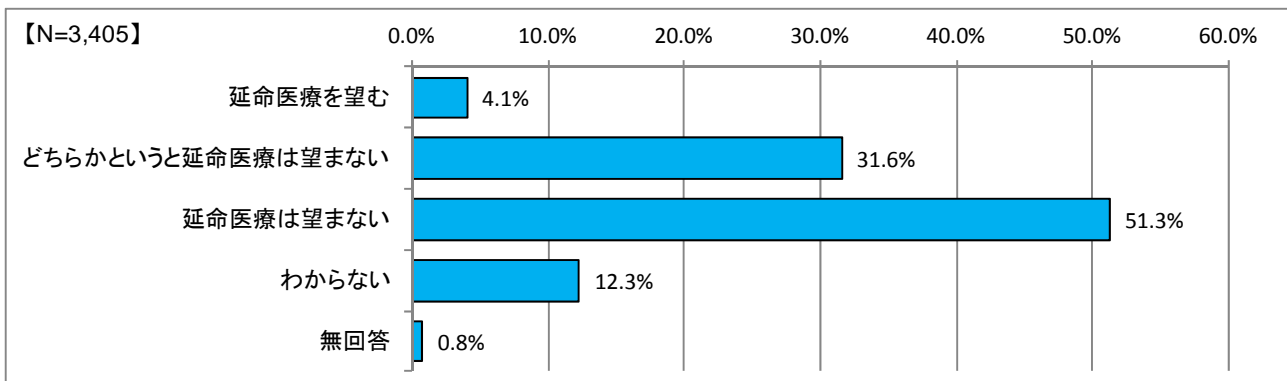
自宅で最期まで療養することが「実現困難である」と回答した人について、その理由をたずねたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が78.6%、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」の60.7%が多くなっています。



(5) 延命医療の希望

***延命医療は「望まない」「どちらかというとな望まない」人が8割以上**

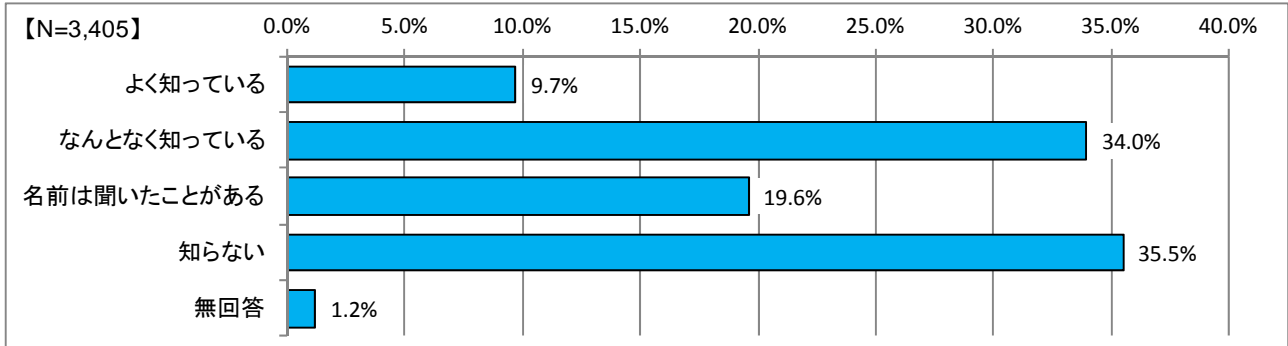
延命医療の希望では、「延命医療は望まない」が51.3%で、「どちらかというとな延命医療は望まない」が31.6%と、延命医療を望まないという回答が8割以上を占めています。「延命医療を望む」という回答は4.1%となっています。



(6) エンディングノートの認知度

* 「よく知っている」のは約 1 割、「なんとなく知っている」を合わせても 4 割強

エンディングノートの認知度では、「よく知っている」のは 9.7%、「なんとなく知っている」は 34.0%、「名前は聞いたことがある」が 19.6%となっています。

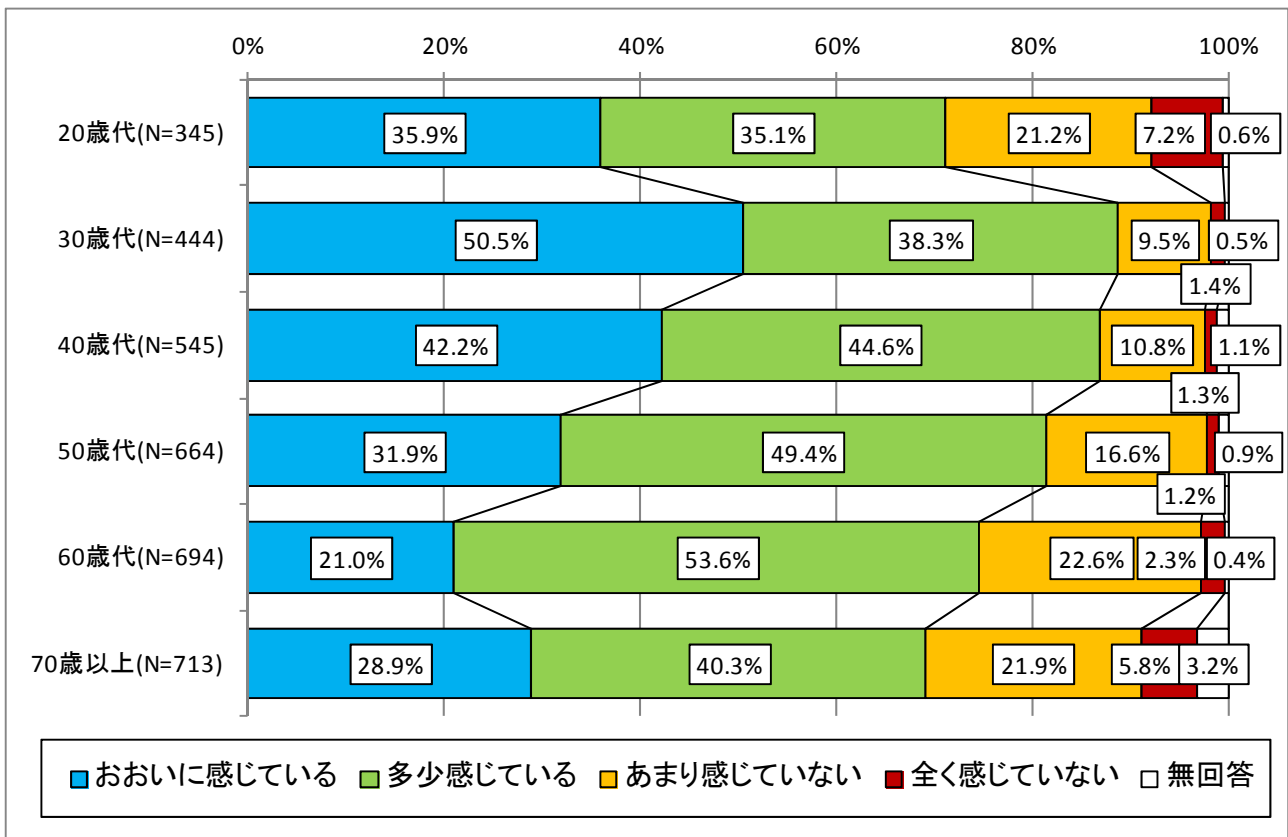


3. 介護について

(1) 高齢期の生活の不安

* 全年齢を通じて、約 7 割以上が高齢期の生活の不安を感じている

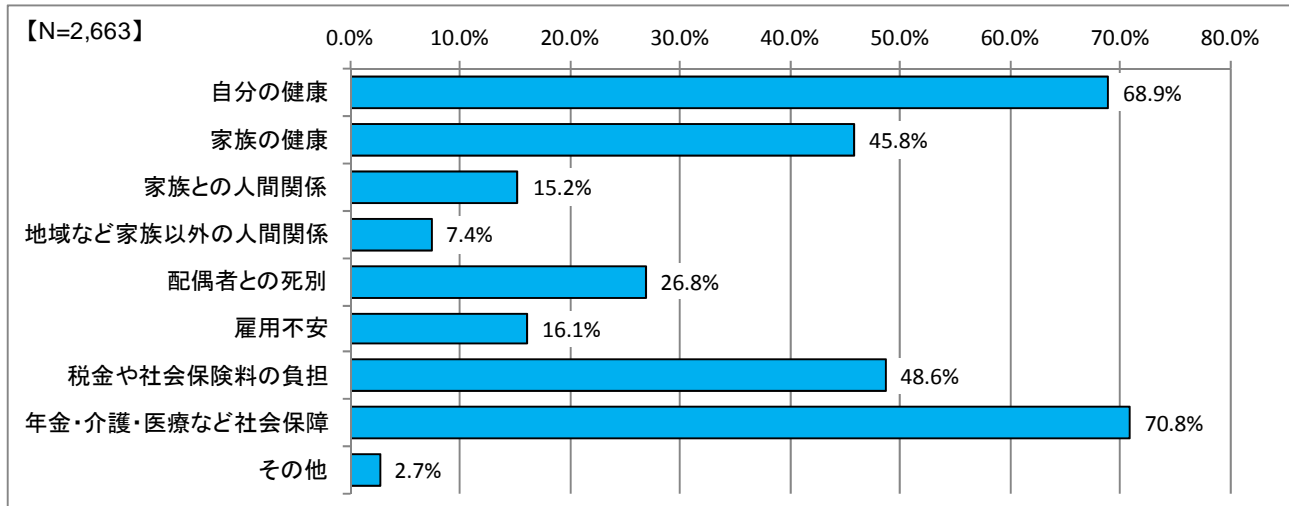
年齢別にみると、「おおいに感じている」は 30 歳代の 50.5%が最も多く、次いで 40 歳代の 42.2%と、他年代に比べると高齢期の生活への不安が高くなっています。また、60 歳代や 70 歳以上では「あまり感じていない」が増加しています。



(2) 高齢期の生活の不安の内容

*年金・介護・医療など社会保障や自分の健康に不安を感じている人が約7割

高齢期の生活について不安を「おおいに感じている」「多少感じている」と回答した人について、不安の内容をたずねてみると、「年金・介護・医療など社会保障」が70.8%、「自分の健康」が68.9%と多く、次いで「税金や社会保険料の負担」の48.6%、「家族の健康」の45.8%となっており、年金などの社会制度と健康への不安感が強くなっています。

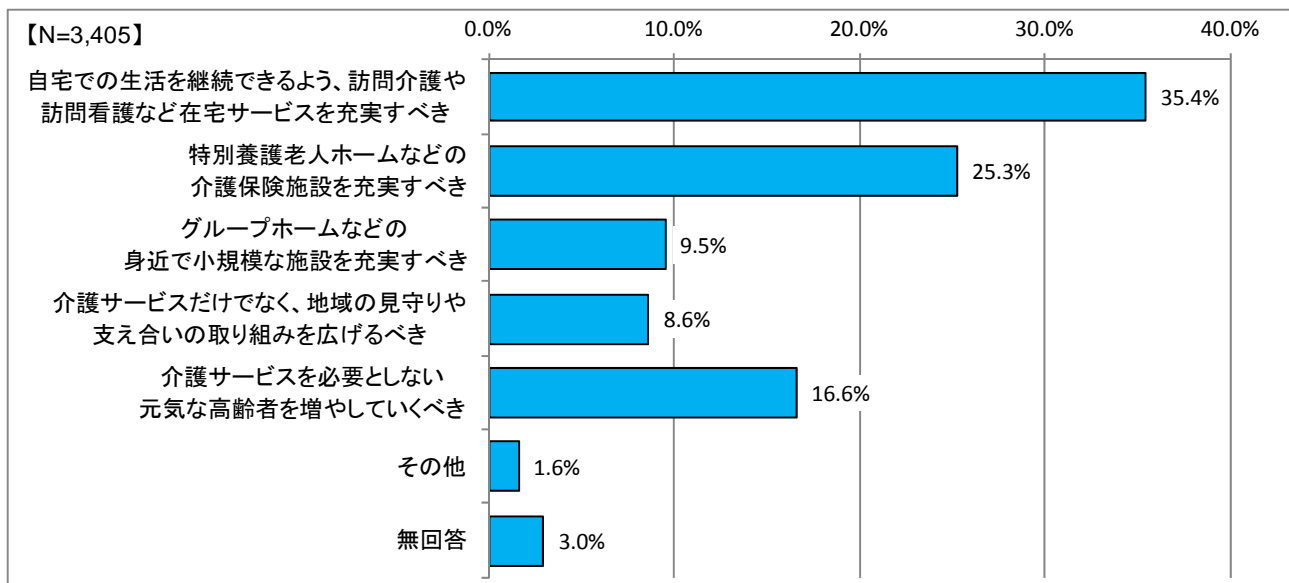


(3) 介護保険サービスで力を入れるべきこと

*訪問介護・訪問看護などの在宅サービスや介護保険施設サービスの充実を望む意見が多い

介護保険サービスで力を入れるべきことでは、「自宅での生活を継続できるよう、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき」が35.4%で、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設を充実すべき」が25.3%となっており、在宅サービスや施設サービスの充実を望む意見が上位を占めています。

また、「介護サービスを必要としない元気な高齢者を増やしていくべき」という介護予防に力を入れるべきとの回答も16.6%となっています。

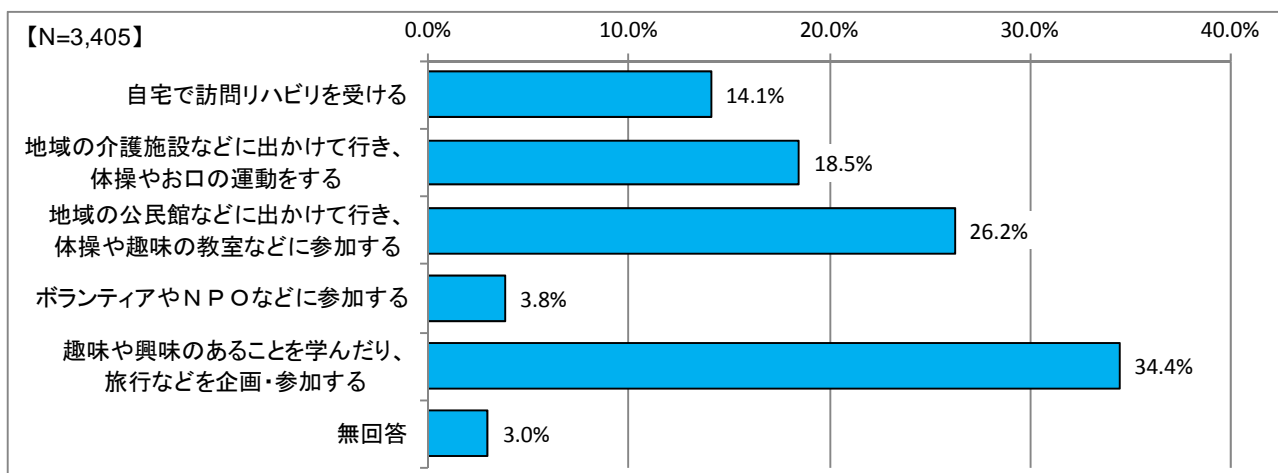


4. 介護予防について

(1) 望んでいる「介護予防」のイメージ

***生涯学習など、自分たちが楽しんでできる介護予防活動が望まれている**

望んでいる「介護予防」のイメージでは、「趣味や興味のあることを学んだり、旅行などを企画・参加する」が34.4%、「地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加する」が26.2%と生涯学習などと連携した活動を望む意見が上位を占めています。

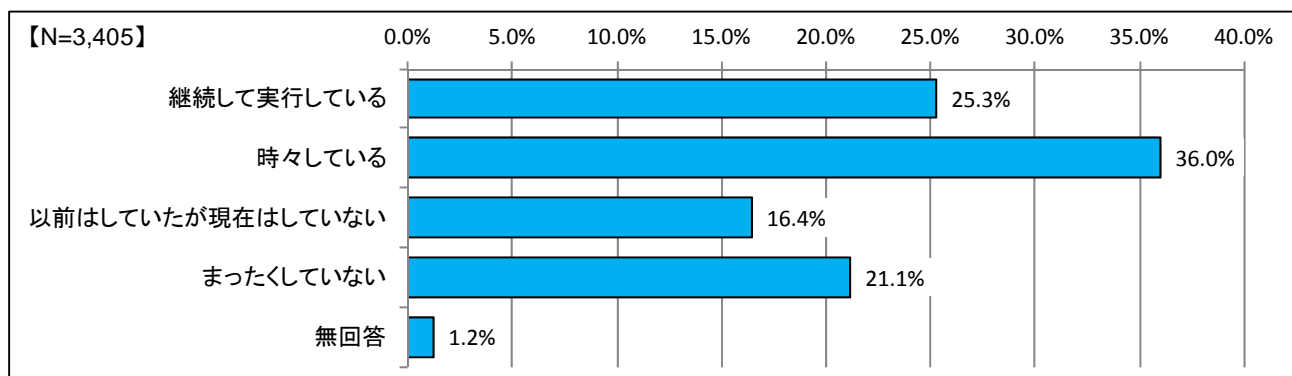


5. 健康づくりについて

(1) 日常生活での運動の継続について

***健康づくりのための継続した運動習慣が必要**

日常生活での運動の継続については、「時々している」が36.0%、「継続して実行している」が25.3%、「まったくしていない」が21.1%、「以前はしていたが現在はしていない」が16.4%となっています。

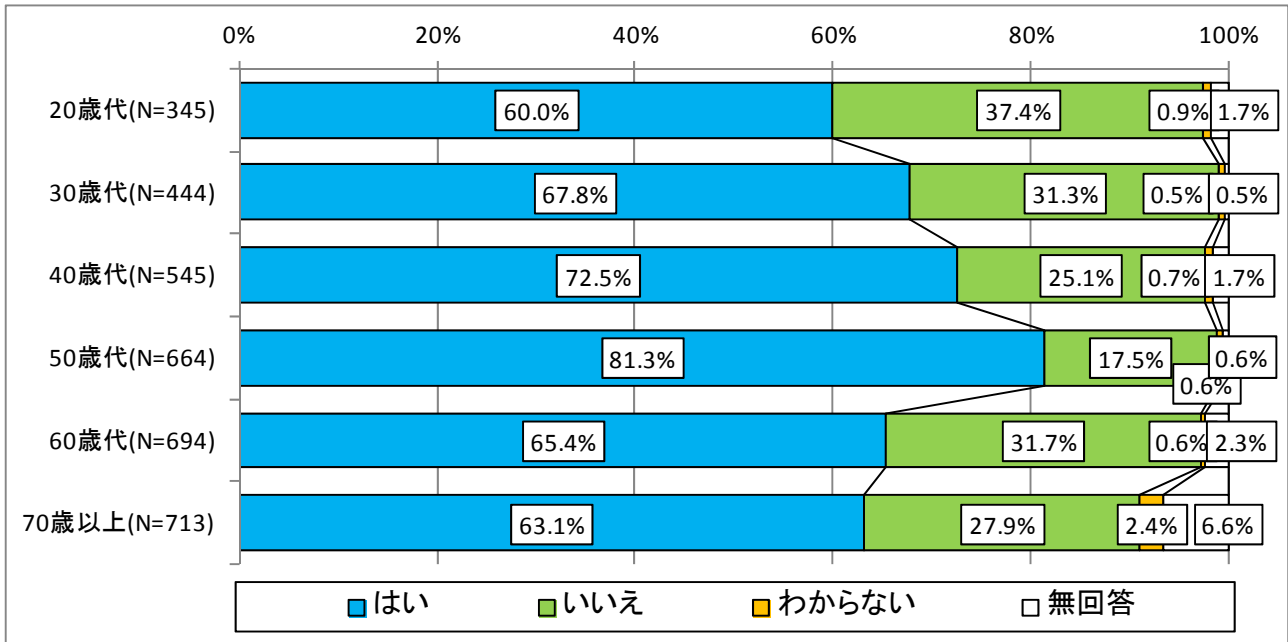


6. 健診について

(1) 健診の受診状況

* 健診を受診している人は、全年代で6割以上

年齢別にみると、「はい」は50歳代の81.3%が最も多くなっています。20歳代や60歳代以上ではやや受診率が低くなっています。



(2) 健診を受診した理由

* 「自らの健康管理のため」に健診を受けた人が最も多い

健診の受診状況で「はい」と回答した人について、受診した理由をたずねたところ、「自らの健康管理のため」が53.1%、「職場で受けるように言われたから」が45.0%、「毎年、受診しているから」が43.5%といった理由が多くなっています。

